



琵琶湖三題

命と心と科学

野洲市長
山仲 善彰
やまなか よしあき

琵琶湖は日本最大、世界有数の古代湖です。地球の臍と形容する専門家もいます。

まず命では、琵琶湖は近畿一千万人の水源、命の湖です。あわせて大事なのが琵琶湖の魚。約八十種ですが、その約2割が固有種です。そのほか貝、エビ、鳥類、それらの命を支えるプランクトン、水生昆虫、植物。これら命の環が水質を支えています。

固有種の多くが伝統的な食材です。鮎寿司、シジミの味噌汁は有名ですが、ほんの入り口。

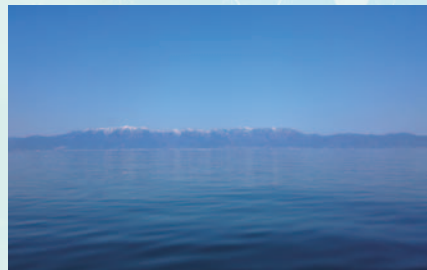


伝統的な食材で彩られた食卓

ホンモロコいの素焼き、ビワマスの刺身など、魚種と料理法さらに季節を交差させると数十、百を超える品が並びます。近江米と地酒、地産野菜の漬物とお茶を添えれば、贅沢な食の空間が現出します。



沖で群れる滋賀県の県鳥、カイツブリ



早春の琵琶湖と比良山系

淡水魚は独特の癖があるからと敬遠されますが、琵琶湖の魚は「塩分のない」海で育った魚。かつて海と往来していたサーモンが琵琶湖に閉じ込められた、ビワマスの刺身を賞味いただければ認識が改まると思います。

つぎは心。琵琶湖は古事記、万葉集はじめ歴史と文化の舞台です。一万年を越える縄文遺跡から、現在まで人々の営みが連続と生きています。天智天皇、大海人皇子、額田王から紫式部、源頼朝、義経、義仲、弁慶、室町幕府の将軍たち、信長、秀吉、光秀、光成、家康とあげればきりがありません。歴史の主役と脇役の活躍の舞台でした。また、比叡山延暦寺に代表される仏教文化、とりわけ浄土文化は琵琶湖抜きには考えられません。比叡山中の湖を望む法然堂、



湖北、海津大崎の桜

と基準しかなく、生物・生態系を視野に入れた多様な指標が必要です。水質指標も旧来のCODに加え、TODの導入が課題です。モニタリングと研究体制の再構築なども期待されます。

湖に浮かぶ浮御堂と竹生島。穏やかで豊かな琵琶湖の「水体」で成り立つ心の宇宙です。

最後は科学。一九六〇年代から琵琶湖の水質は深刻な問題でした。飲料水源であり漁場だからです。七二年から始まった琵琶湖総合開発事業の国会審議でも、すでに汚濁メカニズムの解明が議論されています。半世紀以上たつた今なお未解明です。問題は水質にとどまりません。総合開発に先立って「琵琶湖の総合的な保全のための計画調査」が行われましたが、その後のフォローは不十分です。水質でも飲料水の指標